

平成24年度 京都市予算案 事業概要

交通局

事務事業名	地下鉄烏丸線可動式ホーム柵整備事業(基本設計)		
予算額	5,300 千円	新規・継続の別	新規
	(うち一般会計補助金) 4,000 千円	政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	政策的新規充実予算枠
担当課	高速鉄道部技術監理課 (863-5216)		
<p>[事業実施に至る経過・背景など]</p> <p>地下鉄烏丸線ホームにおける転落防止柵の設置については、路線全体の安全性を確保する観点から、烏丸線全駅に可動式ホーム柵を設置することで検討を進めてきたが、事業者の負担があまりにも大きく、具体化できる状況にはなかった。</p> <p>しかし、お客様により安心して地下鉄をご利用いただくため、国における可動式ホーム柵設置のための検討会の設置の動きや他事業者の先行事例なども踏まえ、費用負担の極めて重い車両改造を行わず設置できないか検討してきた。その結果、お客様が多く必要度の高い京都駅、四条駅、烏丸御池駅の3駅(※)に設置することとした。</p> <p>駅単位での設置は公営地下鉄事業者としては初めての取組であるが、早期の供用開始を目指していく。</p> <p>※1日平均乗降客数(平成22年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都駅 約106千人 ・四条駅 約86千人 ・烏丸御池駅(烏丸線) 約81千人 <p>[事業概要]</p> <p><u>平成24年度については、烏丸線3駅(京都駅、四条駅、烏丸御池駅)への可動式ホーム柵の設置に向けて、基本設計を行う。</u></p>			
[参考(他都市の状況・事業効果など)]			

平成24年度 京都市予算案 事業概要

交通局

事務事業名	地下鉄京都駅賑わい創出事業		
予算額	580,000 千円	新規・継続の別	継続
	（うち一般会計出資金 348,000 千円）	政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	局配分枠
担当課	企画総務部企画課(863-5068)		
<p>[事業実施に至る経過・背景など]</p> <p>京都の玄関口であり、JRや近鉄、地下鉄が結節する京都駅は、四条・河原町と並ぶ商業ゾーンとして、日々多くのお客様がショッピング等に来られる活気あふれるエリアであるとともに、本市地下鉄最大のターミナルである。</p> <p>京都市では、地下鉄の利便性向上と地下鉄財政健全化を推進するため、地下鉄京都駅に、駅ナカビジネスの切り札として、地下鉄駅構内商業スペース「Kotochika（コトチカ）京都」を23年度から整備している。</p> <p>※ 地下鉄京都駅の1日平均乗降客数 約106千人（平成22年度）</p> <p>[事業概要]</p> <p><u>平成24年度は、秋に北改札口エリアをオープンさせる。また、中央改札口エリアにおいては、商業空間と併せて、案内所を移設整備するとともに、待ち合わせや小休止などに利用できる「待ち合わせ空間」を新たに整備するほか、これまでプラットホーム階にしかなかったトイレを増設するなど、お客様の利便性を高める整備を行う。これにより、収益増はもとより、乗客の増、さらには消費の増や雇用の創出にもつなげていくことを目指す。</u></p> <p>1 所在地 京都市下京区東塩小路町地先 地下鉄京都駅構内</p> <p>2 総事業費 約750,000千円</p> <p>3 開発面積 約1,350㎡（うち店舗面積 約630㎡）</p> <p>4 店舗数 9店舗（北改札口エリア6店舗，中央改札口エリア3店舗）</p> <p>5 年次計画 23年度 設計，工事 24年度 工事 24年秋 北改札口エリア開業予定 25年春 中央改札口エリア開業予定</p>			
[参考（他都市の状況・事業効果など）]			

平成24年度 京都市予算案 事業概要

交 通 局

事務事業名	地下鉄事業の経営健全化の取組		
予 算 額	一 千 円	新規・継続の別	継 続
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	—
担 当 課	企画総務部総務課(863-5031), 財務課(863-5080)		
<p>[事業実施に至る経過・背景など]</p> <p>平成20年度決算で、財政健全化法に定める経営健全化基準（資金不足比率20%）を上回り、同法に基づく経営健全化団体となったため、資金不足比率を経営健全化基準未満に引き下げ、将来にわたって地下鉄を安定的に経営することを目標とした経営健全化計画を、平成22年3月に市会の議決を得て策定した。</p> <p>平成24年度においても、同計画に掲げた健全化策に、京都市を挙げて全力で取り組んでいく。</p> <p>[平成24年度における主な経営健全化の取組]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 増収増客策 <ol style="list-style-type: none"> (1) 沿線施設や大学との連携、イベントの実施、若手職員増客チームの取組等によるお客様増加策の推進 (2) 駅ナカビジネスの積極的展開（地下鉄京都駅賑わい創出事業等） 2 コスト削減策 <ol style="list-style-type: none"> (1) 駅職員業務の民間委託拡大等による総人件費の削減 (2) 高金利建設企業債の借換による利息負担の軽減 3 一般会計からの支援 <ol style="list-style-type: none"> (1) 地下鉄京都駅賑わい創出事業への出資 (2) 地下鉄烏丸線可動式ホーム柵整備事業（基本設計）への補助 (3) 国制度に基づく経営健全化対策出資 (4) 市バス事業への補助金削減を財源とした高資本費対策補助 <p>[参 考（他都市の状況・事業効果など）]</p>			

平成24年度 京都市予算案 事業概要

交通局

事務事業名	市バス事業の経営健全化の取組		
予算額	— 千円	新規・継続の別	継続
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	—
担当課	企画総務部総務課(863-5031), 財務課(863-5080)		
<p>[事業実施に至る経過・背景など]</p> <p>平成20年度決算で、財政健全化法に定める経営健全化基準(資金不足比率20%)を上回り、同法に基づく経営健全化団体となったため、一般会計からの任意補助金を削減しつつ、資金不足比率を経営健全化基準未満に引き下げ、累積資金不足の解消後は、一般会計の任意補助金から自立した経営を行っていくことを目標とした経営健全化計画を、平成22年3月に市会の議決を得て策定した。</p> <p>平成24年度においても、同計画に掲げた健全化策に、京都市を挙げて全力で取り組んでいく。</p> <p>[平成24年度における主な経営健全化の取組]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 増収増客策 <ol style="list-style-type: none"> (1) お客様の利便性向上に向けたダイヤ編成 <ol style="list-style-type: none"> ①河原町通での等間隔運行の土曜・休日への拡大 ②地下鉄をはじめとする鉄道との乗継利便性向上 ③沿線地域との連携による運行の充実 (2) 観光系統「洛バス」100号系統や205号系統の運行充実 (3) 水族館開業に合わせた新たな運行の実施 (4) 更なる増収・増客に向けた旅客交通調査の実施 (5) バス待ち環境の向上 2 総人件費の削減 <p>業務の見直し等による職員数削減など</p> 3 バス車両購入費の削減 <p>バス車両の状態を徹底的に点検精査し、更新車両数を抑制</p> 4 市バスによる定期観光バス事業の終了 <p>健全化計画に基づき、定期観光バスの運行を平成24年3月16日をもって終了</p> 5 一般会計からの任意補助金の削減 <p>バス車両減価償却費等補助金を休止するなど、一般会計からの任意補助金を地下鉄事業への支援拡大のため、計画以上に削減</p> <p>[参 考 (他都市の状況・事業効果など)]</p>			